

お正月を遊ぶ —懐かしき玩具の世界—

平成6年1月5日(水)～21日(金)

新年を迎えると言っても、昔ながらのお正月らしさは次第に失われつつあるこの頃です。それでも、お正月と言えば思い浮かべる玩具があります。ここに集めた本で、しばし昔々の子供たちの姿に思いを馳せてみるのはいかがでしょうか。

展示資料リスト

<>内は当館請求記号

1) うなゐのとも

清水晴風, 西沢笛畝編

京都 芸艸堂 1891—1924 全10冊

<16-143>

「うなゐ」とは幼い子供のこと。日本各地に伝わる玩具をカラフルな絵入りで紹介している。全10冊のうち初編から6編までを清水晴風が、清風没後7編から10編までを西沢笛畝が編集した。

2) 複製版画双六

唐沢富太郎解説

東京 装飾美術社 1975 図23枚 解説2冊

<YP14-221>

明治時代のものを中心に、教育双六、遊戯運動双六、風俗・滑稽双六、歴史・地理双六あわせて18点を原画大で復刻。大正初期のさいころ1個を付す。

3) 日本の凧

新坂和男編

東京 角川書店 1978 62p 図版253p

<YP13-270>

日本各地の凧の図版。全ての凧の骨組み図と解説を巻末に付す。

4) 江戸独楽

広井道顕, 広井政昭編著

東京 日貿出版社 1993 198p

<KB297-E90>

代々独楽作りを家業としてきた広井家の三代目賢二郎と四代目道顕・政昭兄弟の作品集。江戸独楽とは単に回すだけの独楽ではなく、からくりや特異な意匠を用いて見て楽しめるように作られた独楽である。

5) 吉徳これくしょん 雛人形・五月人形・羽子板

山田徳兵衛編

東京 東京堂出版 1983 155p

<YP18-493>

人形問屋「吉徳」の十代目が、江戸中期より社で所蔵するコレクションから紹介。

6) 歌留多

東京 平凡社 1984 269p

<KD958-51>

百人一首、いろはかるた、花札を収録。歌の解釈、遊び方、かるたの歴史等の解説を付す。